

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念に基づいたサービスを提供している。	<input type="radio"/> 少しずつ、地域の中で生活していただけるよう取り組んでいきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念に基づいた言葉がけや接し方記録などができているか、職員同士お互いに声を掛け合っている。	<input type="radio"/> 朝礼時や毎月のスタッフ会で、理念に基づいた内容の会議を行っている。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	面会時などに、理念に基づいたサービスを提供していることを家族に伝えている。	<input type="radio"/> 地域の人たちと話す時にも理念を取り入れている。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時出会った方々と朝夕の挨拶を交わしている。	<input type="radio"/> 全職員が隣近所の方々と日常的な付き合いができるような取り組みをしていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭り(お薬師さん)にお参りに行き、地域の人達と交流ができた。秋祭りには太鼓台・獅子舞に参加している地元の人達と交流でき喜ばれた。	<input type="radio"/> 今後とも、地域活動参加の取り組みを進めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方から、介護予防や認知症への理解、接し方などの相談を受けている。	○	今後、さらに介護予防や認知症について、職員の知識を高める取り組みをしていく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初めてのサービス評価ということで、評価の意義とねらいについて運営者、管理者、職員で話し合いを行って全員で取り組んでいる。	○	外部評価の意義を理解して結果を活かした取り組みを行っていききたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第1回運営推進会議を平成20年3月26日に開催した。ここでは、利用者へのサービス提供の状況などについて話し合った。	○	運営推進会議開催時に、評価の結果を報告してサービス向上に取り組んでいきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	開設当初、市担当者に相談して、暖かい助言や励ましをいただいた。	○	介護保険の更新手続きなどで市を訪問した機会に、ケアサービスの取り組み状況を報告している。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	該当者がいないため、学ぶ機会を持っていない。	○	今後、機会があれば権利擁護に関する研修会などに参加していききたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「身体拘束ゼロ推進委員会」の話し合いの中で、虐待の事例集の読みあわせを行った。朝礼でも一例ずつ読み合わせを行って、職員全員で虐待防止の徹底を行っている。	○	高齢者虐待防止の事例集をテキストにして、知識を深めていききたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>家族のケアなどに対する不安な気持ちを和らげるような説明を行っている。特に、利用料金、リスク、重度化などの疑問点を聞きながら、理解や納得していただいている。</p>	<p>○</p> <p>利用者が状態変化などにより契約の解除に至る場合は、受け入れ先を紹介して、利用者や家族の方々と充分相談していただいて今後の受け入れ先を決めてもらっている。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者から話を聞く時はゆったりとした気持ちになって、意見や不満、苦情が話しやすい雰囲気をつくっている。そして、出された内容は全職員が共有して利用者本位の運営に心がけている。</p>	<p>○</p> <p>利用者から食事の献立について意見を聞いている。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の面会時には、必ず声を掛けて利用者の日頃の様子を伝えている。</p>	<p>○</p> <p>健康状態に変化があった時は、家族に電話で報告して対応など相談している。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族が面会に来られた時は必ず笑顔で挨拶して、日頃からよい人間関係をつくっておくようにする。そして、意見や不満・苦情が話しやすいよう声を掛けて意見を運営に反映させている。</p>	<p>○</p> <p>家族から出された意見や苦情は真摯に受け止めて、朝礼やスタッフ会議、申し送り簿などで全職員に伝えて話し合い、質の向上に取り組んでいる。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>常日頃から職員に声をかけて意見を聞いて運営に反映させている。</p>	<p>○</p> <p>不平や不満があるときは話せるような人間関係を築いている。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>管理者は日常業務の中には組み入れてないので、利用者や家族の要望に応じて、柔軟な対応ができています。</p>	<p>○</p> <p>健康状態の優れない利用者がある時は、食事時間に職員を多く配置している。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動などがあつた時は利用者に速やかに報告して、その後どのように代わっていくかという内容をわかり易く話しをして理解していただいている。</p>	<p>○</p> <p>基本的には各ユニットの職員を固定化して支援している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	その研修に適した職員が参加できるように計画して、多くの職員が施設外研修にも参加できるようにしている。	○ 研修へ参加した職員は研修報告書を提出して、スタッフ会で全職員に報告している。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との相互訪問をしたり、電話でサービス提供の意見を交換している。	○ 今後とも、他施設との交流を通してお互いにサービスの向上につなげていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の顔の表情や話し言葉、態度などに留意して、必要時声を掛けて個別に話を聞くようにしている。	○ 常日頃から良い人間関係をつくっており、話しかけやすい雰囲気づくりに気をつけている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務態度が良い職員や努力していると思える職員には、機会を見つけて励ましの声を掛け、向上心を持って働いてもらえるような声を掛けている。	○ 受験資格がある職員には介護福祉士や介護支援専門員の試験を受験するように働きかけている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前面接の時などに、さりげない話をしながら健康状態、食事形態、入浴方、移動の仕方などについて聞いている。	○ 話を聴きながら、本人が一番困っていること、不安なこと、私たちに求めていることは何かを知った上で、どのような支援をすればよいかを話し合っている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所申込時に、今どんなことに困っているか、入所することで不安なことは何かなど、充分聴いて介護計画に反映している。	○ 家族のこれまでのご苦勞をよく聴いて労いの言葉をかけたり、少しでも家族の気持ちを理解して家族との信頼関係を築いている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたときに、グループホームの入所できる要件を知らせている。	○	もし該当されない方の場合は、入所できる施設などを知らせて対応している。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に見学していただき、職員や他の利用者の方と触れ合うなかでホームの雰囲気に馴染んでいただいている。	○	本人が納得し、安心して入所できるよう無理のないサービス利用を心がけている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理・洗濯・掃除などの家事を本人と一緒にしながら教えてもらうことも多く、感謝や労いの言葉をかけながら共に過ごしている。	○	手芸の得意な利用者と手袋を使って人形を作ったり、パッチワークや毛糸のたわしづくりを一緒にして楽しんでいる。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人が調理や洗濯物たたみの様子を話して、喜びや楽しみを共有している。	○	家族の面会時に、調理や洗濯物をたたんでいる様子を見てもらったり、でき上がった作品を見てもらう時、家族の方から共に支えあっている気持ちがするというような声を掛けてくれている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	個々の利用者と家族との関係を充分理解して、一人ひとりに合わせて、より良い関係が築けるよう支援している。	○	家族が遠方で入所するまでは希薄な関係だったが、よく里帰りして訪問されたり、電話をかけて近況を尋ねられている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の知り合いが面会に来られた時は、お話しする場所を本人と一緒に選び、雰囲気のよい状態が保てるように心がけている。	○	自宅近くの人や若いときからの友達が、今後も訪問してくれるような気持ちになるよう、場の雰囲気づくりに配慮している。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の気持ちを考慮して、気の合う人と話したり行動できるよう座る席など気をつけている。クラブ活動なども共に楽しみ、話題づくりになっている。	○	ひとりで過ごすことを好まれる利用者にも時々声を掛けて、調理など一緒にしていただきながら、孤立しないような支え方をしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了しても、家族と会った時は利用者の現在の様子を聞いている。また、本人の病院を訪問する機会があった時は、病室を訪問している。	○	どの利用者も地域に住んでいる方ばかりなので、たとえサービス利用が終了してもよい人間関係を継続していきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日のさりげない話しをする中で、本人の思いやここでの暮らし方の希望を話していただき、本人の意向の把握に努めている。	○	介護計画作成前、本人の思いや意向を十分聞いて計画に取り入れ、全職員が実行できるよう検討している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者と話しながら、これまでの生い立ちや暮らし方などの把握に努めている。	○	作業や活動と一緒に言いながら、自然に話している内容に耳を傾け、これまでの暮らしを踏まえた介護計画を作成していく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	心身の状態を考慮すると共に、本人の趣味や特技、興味のあるものを理解して、楽しい毎日を過ごしていただけるように努めている。	○	これからも、一人ひとりの有する力に応じて、有意義な1日を過ごすことができるよう取り組んでいきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者、計画作成者が中心となって、本人や家族の思いや意向を基に介護計画(案)を作成している。	○	介護計画の話し合い時には本人・家族にも参加し、その場でも思っていることを話していただき、関係者を交えて検討し、介護計画を作成している。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月一度モニタリングを行い、3か月ごとに介護計画の見直しを行っている。	○	本人の体の状態が変化した時は、家族と共に医師から病状説明を受けるとともに家族にも参加していただき、随時にカンファレンスを開いている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録や検証表を、モニタリング時や介護計画作成時に参考としている。	○	毎日一緒に過ごしながら気付いた点や、利用者が工夫している点を記録して、介護計画の内容に取り入れている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療処置を受けながら、ここでの生活が継続できるような支援を行っている。	○	本人や家族の要望に応じて、できる支援を行っている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	認知症の特徴から警察への通報や家族、他の福祉施設と協力を得ながらボランティアで支援していただいている。	○	地域の公民館での生活展に作品を出展するような取り組みを考えている。今後、市の図書館の有効利用を計画している。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の体調が悪い時は、訪問理容サービスを受けている。	○	地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合っ て、介護保険以外のサービスも検討していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加しており、支援に関する情報を交換できている。	○	地域包括支援センターとの関係を、これまでよりも蜜な関係になるように取り組んでいきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人および家族の希望しているかかりつけ医の受診支援をしている。受診・通院については利用契約時にその旨を説明して同意を得ている。	○	事業所の協力医療機関以外に、利用者のこれまでのかかりつけ医の医療を受けられるように家族と協力して通院介助を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関に認知症について相談を行っている。	○	必要時、協力医療機関から認知症の専門医を紹介していただき、利用者が認知症の診察や治療を受けることができるような支援を予定している。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関の看護職員が必要時訪問して、利用者の健康管理や医療活用の支援をしている。	○	利用者の状況に変化があったときは深夜でも協力医療機関に連絡して看護職員に相談している。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院された時、本人の介護に関する情報などを病院側に提供している。	○	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関へ提供している。また、頻繁に見舞ったり家族とも情報交換を行っていききたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合について、本人・家族・医師を交えて話し合いを行っている。また、状態の変化がある度に家族の気持ちの変化を確認して対応している。	○	利用契約時に、本人が重度化した時の家族の意向をうかがっている場合もあるが、重度化や終末期を迎えた時には再度そのときの意向をうかがっていききたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化したり終末期の利用者が日々その人らしく暮らせるために、かかりつけ医に相談しながら事業所のできることをチームとして支援している。	○	本人や家族の意向を踏まえて、職員がかかりつけ医と密接な連携を図るようにしていきたい。また、本人や家族の意思確認を随時行って、納得できる最後を迎えていただけるよう取り組んでいきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	グループホームから別の居所へ移り住むときは、本人および家族、その他ケアに関わる人達で充分情報交換を行って話し合い、本人がこれまでと変わらない生活が送れるように支援している。	○	他の事業所に移動された場合、利用者のプライバシーを守りながら支援方法などを情報提供していきたい。他事業所へ移られてからも必要であれば、きめの細かい連携を図っていききたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	○	<p>実際に見聞きしたことでプライバシーを損ねるような言葉や態度を書いて職員に提出してもらっている。そして、それらの意見を参考に毎月標語を決めて、お互いに気を付けていくように取り組んでいる。</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	○	<p>常に複数の選択肢を用意して、利用者本人が決定できるように取り組んでいる。</p>
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	○	<p>自分の意志を伝えるに利用者の場合、家族から元気な頃の利用者がどのように過ごしていたかなどの情報を参考に、日々を過ごしていただくように取り組んでいる。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	○	<p>理容美容については、本人家族の希望する店を利用してもらっている。地域の理髪店美容院を希望される場合は、送迎見守りなどの支援も行っている。</p>
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	<p>お膳に一食分を配置して写真を写しアルバムなどにファイルして目で見るメニュー表を作成して、複数献立時などに選択していただくように取り組んでいる。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	<p>コーヒーを飲んでいただく時には本人にコーヒーの粉、砂糖、ミルクなど好みの量を入れていただくようにしている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりのトイレへ行きたいというサインを見逃さず、行きたい時に「ちょっと待って」と言わないで速やかに対応している。	○	もし失敗された時は、他の利用者が気が付かないように対応し、本人の心に傷がつかないように配慮している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者が入浴を拒む時は、時間をおいて声を掛けたり職員が代わって誘いかけるようにしている。	○	朝風呂、夜間入浴など本人の希望する時間帯に入浴できるように取り組んでいる。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中はできるだけ活動を促し、生活リズムを整えるようにしている。また、眠りにつきにくい利用者場合は、個別に対応している。	○	寝付けない利用者には夜間入浴や足浴など、利用者本人と話をして気持ち良く眠れる方法を試みている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの得意分野を把握しておき、本人のやる気を引き出せるような言葉をかけお願いして、活動してもらいながら支援している。	○	一人ひとりの利用者に役割を持っていただき、張り合いや喜びのある毎日が過ごせるように取り組んでいる。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が持っている力や希望に合わせて家族とも相談しながら、金銭を所持していただいている。購入したい商品ができた時は家族と相談して同行させていただいている。	○	自分でお金を支払って、つり銭をもらうというような社会性をいつまでも身につけていけるように取り組んでいる。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者から外出に行くことを誘っていただき、利用者の希望する散歩コースを支援しながら散歩を楽しんでいる。また、食材の買い物に同行してもらったり、近くの広場まで散歩しておやつなどを食べながら過ごせるように支援している。	○	散歩へ行きたいことを言葉で表現できない利用者場合は、いくつかの散歩コースの中から顔つきや顔の表情などで選んでもらっている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段行けない場所への外出は、季節なども考慮しながら利用者と相談して目的地を計画している。	○	一人ひとりの利用者の誕生日には、希望を聞いて個別に職員が同行して外出を楽しんでいる(コスモスの花を見に行ったり、カラオケ店に家族の方も一緒に参加して喜ばれている)。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の子機で家族や友人に電話をかけやすい環境を整えている。	○	遠方の息子さんに、月に一度位の頻度で近況をしたためた手紙を送っている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や友人に本人の家を訪問するような気持ちで訪れてもらって、部屋とかフロアで話を楽しませている。	○	面会時間を決めてないので、早朝や仕事帰りに気軽に訪れてくれている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象となる具体的な十一の行為を施設内研修を通じて全職員に知らせて、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	○	身体拘束ではないかと思われる具体的な行為や言葉を出し合って、お互いに点検しあっている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者一人ひとりの外出の癖を把握して対応している。	○	利用者が外出したい時は、職員に声を掛けて外出に誘っていただくようお願いしている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、夜間を通して利用者の様子を確認すると共に、24時間利用者の安全に配慮している。	○	職員が記録をしている傍に座っていただき、利用者にも日記を書いてもらえるような場を提供している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険を防ぐための検討を全職員で行っている(はさみ、カッター、薬品など)。注意が必要な物は職員が管理し、一人ひとりに応じて使用している。	○	一人ひとりの利用者によって注意の必要な物品は違ってくるが、職員と一緒に使用してもらうようにしている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットや事故が起きた時は速やかに報告書を作成して検討を行い、問題の共有化を図っている。	○	一人ひとりの状態から事故が予測されることを想定して、事故を未然に防ぐような取り組みを行っている。体の状態が変化し嚥下が困難になってきた利用者に対しては、食べ物などが謝って気管などに入ってしまうことを防ぐために食事形態を工夫する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の急変や事故発生時の対応についてマニュアルを作成して全職員に周知徹底している。	○	急変や事故発生に備え、応急手当や初期対応の勉強会を開き取り組んでいきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て避難訓練、消火器の使い方などの訓練を行っている。避難訓練には利用者も参加し、共に防災についての意識を高めている。	○	災害に備えた物品などの準備をしている。(飲料水・日持ちがしてすぐ食べられる食べ物・寒さをしのげる毛布など)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者一人ひとりに起こりうるリスクについて把握しており、家族との面会時を利用して対応策を相談している。また、ケアプランにも入れている。	○	部屋に鍵をつけて欲しいと希望される利用者に対して、出入りが自由にできるように紐でくっつけていただけるように対応している。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者一人ひとりの日頃の様子を十分に把握して、バイタルサインチェックや入浴時の観察などにより異常の発見に努めている。職員間での引き継ぎにより情報を共有している。	○	顔色、言葉数、いつもと違う動きをされてないかなどに注意している。必要に応じてバイタルサインチェックを行い記録すると同時に職員間で相談して、医療機関へ連絡している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をケース毎に綴って、職員が薬の内容を把握できるようにしている。	○	服薬時は薬を本人に渡して服薬できたことを確認して「服薬チェック表」に職員の名前を記入している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質が多く含まれているさつまいもやごぼうなどの野菜やバナナなどを食べてもらっている。また、好みでオリゴ糖入りカスピ海ヨーグルトを食べてもらっている。	○	便秘対策として、水分摂取を多くしたり毎朝の体操や腸のマッサージをして、薬に頼らない自然排便に取り組んでいる。排便チェック表を作成し、毎日チェックをしている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、洗面所で口腔内の手入れを利用者一人ひとりに合った方法で行っている。	○	利用者自身が手入れできる人達は、食後に声を掛け合って洗面所へ行くことが習慣化してきている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や希望に応じた食事形態で食べていただいているが、一日を通しての栄養や水分の摂取量を把握している。食事以外のおやつなどでも充分栄養が摂れるようにしている。	○	食事水分量が低下した時は表に記録している。もし、少量しか摂取できてない時は職員間で話し合っ、対策を立てて取り組んでいる。毎月始めに体重測定を行って、栄養状態の目安にしている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ノロウイルス対策として手を洗った後はペーパータオルを使用している。職員は出勤時と帰宅前にうがいと手洗いをしている。また、外出から帰った時は利用者にも声を掛けてうがいと手洗いをお願いしている。	○	感染症対策委員会を中心に、感染症マニュアルに沿った研修を全職員を対象に随時行っている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮で安全な食材を提供することを心がけている。そこで、食材は一度に多量に購入しないようにしている。	○	食器・調理用具など毎食後食器洗浄器にかけている。食材の残りは鮮度や状態確認をして冷凍することもあるが、冷蔵庫、冷凍庫内は常に点検している。冷蔵庫掃除チェック表を作成し、清潔保持に努めている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前に利用者と一緒に季節の花を植えて、水遣りもいっしょにしている。	○	カウンターに観葉植物や季節の花を置いて、明るい雰囲気になるように工夫している。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾りつけやテーブルの配置は利用者と相談しながら、協力してもらって行っている。テーブルや洗面所などには季節の花をいつも生けている。	○	散歩時に彼岸花やススキなどの季節の草花を摘んで帰って季節感を取りいれている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に備え付けられた椅子に2～3人腰をおろして話されている。	○	利用者同士の関係性などによって座る席が決まってきた。比較的一人で過ごすことで落ち着かれる利用者にはその空間を大切にしながら、時々声を掛けながら見守っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたホーム炬燵や椅子、テレビ、冷蔵庫などを部屋に置き、自分の部屋として落ち着いている。	○	部屋内のベッドや椅子、電気製品の配置は本人・家族と相談しながら行っているため、私の家という感覚をお持ちになっている利用者もおおいで。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計でチェックをし、必要に応じてエアコンで調節している。気温の低い日も6時・10時・15時に換気を行い外気温との差が少なくなるように気をつけているが、利用者の状況にも配慮している。	○	トイレは常時換気を行ない、消臭剤を置いて匂いが出ないように気をつけている。また、できるだけ冷暖房に頼らなようにしている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下など、利用者がよく移動するところには物を置かないように安全面に気をつけている。車椅子での移動が十分な広さのフロア・部屋・トイレがあり、手すりもつけられている。	○	シンクや調理台の高さは利用者の使いやすい高さに調節して、洗面台は車椅子でも使いやすく、利用者の自立を促している。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	その人にとって「何が混乱を招くのか」などを配慮し、状況に合わせて環境整備を行っている。利用者と一緒に日めくりカレンダーを作って毎朝めくっていただいたり、大きな掛け時計を見やすい所に掛けている。	○	わかる力を活かした環境づくりに職員間で話し合っ取り組んでいきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	裏に家庭菜園があり、季節の野菜などを作り日常的に楽しみながら活動している。ベランダで洗濯物を干したり取り込んだり、気分転換に出られたりしている。	○	畑に苗や種と一緒に植えて水やりなど楽しみながら育てて、成長したら収穫して食材として利用している。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の誕生日には本人や家族と相談しながら、希望する誕生日祝を企画してお祝いしている。